患者さんが急変 – その時私たちは –

院内急変対応勉強会

「病院や施設内で患者さんや利用者さんの容態が急変した時、どう対応したらいいのか」をテーマに、達生堂グループ院内急変対応チーム（ＪＲＲＴ）による院内急変対応勉強会が６月 15 日、城西病院で開かれました。病院スタッフや社会福祉法人 達生堂のスタッフ約 30 人に、結城消防署の救急救命士５人がアドバイザーとして駆け付け、本番さながらの実習が行われました。

勉強会は、夜間に病室内で心肺停止の患者を発見したという想定で、ＪＲＲＴメンバーがチーム蘇生の対応をシミュレーション。「まず人を呼ぶこと。そして一刻も早い心肺蘇生を施すことが救命につながる」とし、急変を「予想されていない急激な病状悪化や心肺停止」と定義づけました。

実習では、５人が１チームとなって、人形を使ってＢＳＬ（一次救命処置）について学びました。

急変患者を発見した際には、まず頸動脈で心拍を確認。心拍がない場合には、すぐに心肺蘇生法を実施。心肺蘇生法は、１分間に 100 ～ 120 回を目安に胸部を５～６㎝の深さで胸の中央、剣状突起のない胸骨を圧迫します。そして、ＡＥＤが到着次第、ＡＥＤによる心肺蘇生を試みます。

実習でも多くのスタッフを呼んでチームとしてＢＳＬを行う重要性を訴えました。達生堂グループでは、すべての職員がこの研修を受け、急変に対応できる体制づくりを進めています。

平成 29 年６月 16 日

心肺蘇生を中心に―臨場感あふれる実習

©Tasseido group